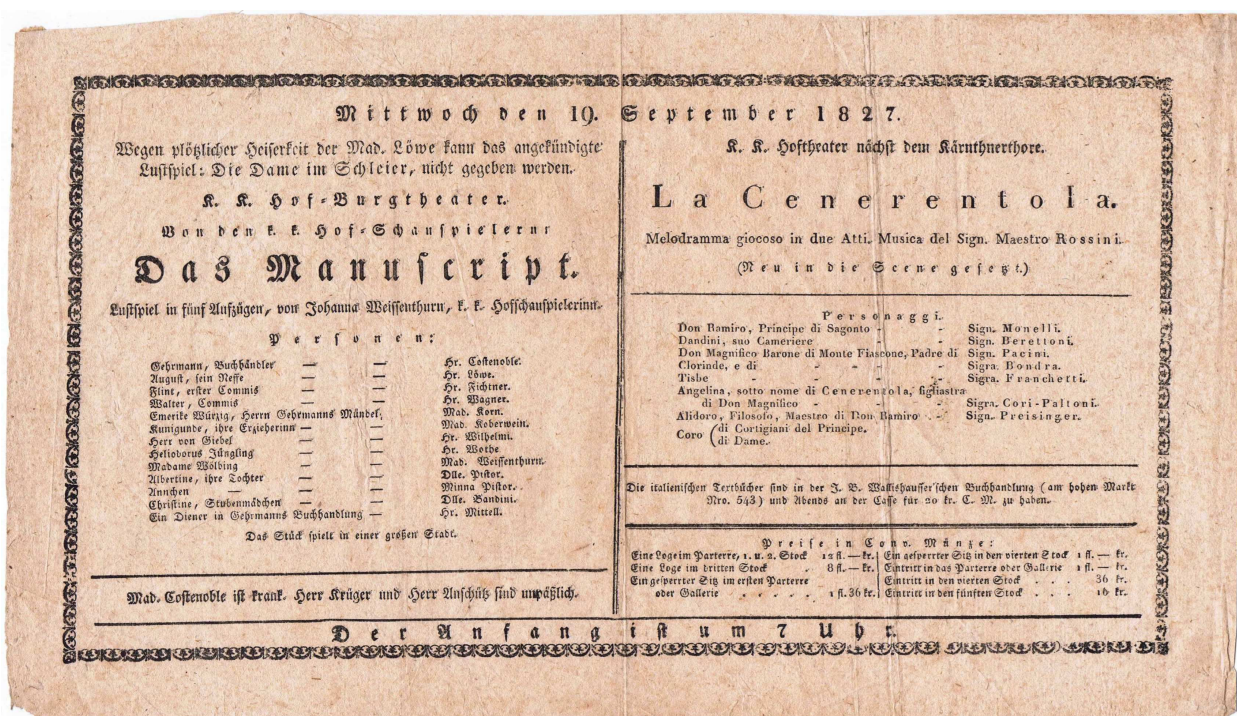


《ラ・チェネレントラ》 ヴィーン上演の告知ビラと出演者

(1827年9月19日、ケルトナートーア劇場)

水谷 彰良



1827年9月19日、ケルトナートーア劇場《ラ・チェネレントラ》告知ビラ(筆者所蔵)

[Collezione privata di Akira Mizutani – Tokyo]

解説

ヴィーンにおけるロッシーニ受容は1816年11月の《幸せな間違い》に始まり、続く5年間に《泥棒かささぎ》《オテッロ》《アルミーダ》を含む16作品が上演され、人気を博した。1822年にはケルトナートーア劇場の興行権を得たナポリの興行師バルバーイアがロッシーニと著名なイタリア人歌手(コルブラン、ダヴィデ、ノツァーリ、アンブロジー)を招聘してオペラ・シーズンを実施し、4月13日から7月24日までの約100日間にケルトナートーア劇場とアン・デア・ウィーン劇場でロッシーニ9作品が58回上演され、大成功を収めた。

ヴィーンのロッシーニ熱はその後も続き、1826年にベルリンから来たヨーハン・ヘッケは「飽きるほどのトリル」を果てしない反復を持つロッシーニのオペラがヴィーンではなお人気の的、と述べたという¹⁾。しかし、超一流の歌手たちが出演したのは20年代半ばまでで、その後は歌手のレベルが徐々に下がり、ロッシーニ人気も徐々に下火になっていった(後述)。

当時の上演を知る重要資料は印刷台本(リブレット)とされ、配役のみならず掲載されたテキストから楽曲のカットや差し替えを含む演奏実態も理解することができる。印刷台本は主にシーズンごとに制作販売され、出版物であることから検閲の対象となって後世に残されるのに対し、すぐに失われてしまうのが一日単位で刷られる上演告知ビラである。市内要所に宣伝を兼ねて貼りだされるビラはすぐ用済みになるので現存数が乏しく、研究書に複製されるものを除いて見る機会は稀である。ここに掲載するのは筆者の所蔵する1827年9月19日ヴィーンの上演告知ビラで、左半分はブルク劇場、右半分はケルトナートーア劇場に充てられ、当時の配役を知る数少ない現存資料の一つとなっている。拡大すれば判読可能と思うので次に要点を示し、歌手について知りうることを記してみたい。

1827年9月19日の演目と配役

この1827年9月19日(水曜日)の上演告知ビラは、35.5×20.5 cmの用紙片面に活版印刷され、左半分はブルク劇場における『Das Manuscript』の告知である。その作者は女性劇作家ヨハンナ・フォン・ヴァイゼントゥル

ン (Johanna von Weißenthurn, 1772-1847. ビラには Johanna Weißenthurn と表記)である²。『Das Manuscript』は前年 (1826 年) 初演された劇で、今日ではジェンダー的な視点から関心を持たれているようだ³。

右半分はケルトナートーア劇場におけるロッシーニ《ラ・チェネレントラ》の上演告知。配役に掲げられた歌手に関しては次のように推測しうる。

◎**ドン・ラミーロ：モネッリ氏 (Don Ramiro: Sign. Monelli)**

おそらくサヴィーノ・モネッリ (Savino Monelli, 1784-1836)。《泥棒かささぎ》初演のジャンネット役と《ブルグントのアデライデ》初演 (共に 1817 年) のアデルバルト役を創唱したテノールで、ドン・ラミーロは 1817 年秋にミラーノのスカラ座で歌っている。ドニゼッティ《当惑した家庭教師》(1824 年) エンリーコ役も創唱。美声ではないが、洗練された歌のセンスとテクニックの持ち主とされる。

◎**ダンディーニ：ベレットーニ氏 (Dandini: Sign. Berettoni)**

おそらく 1827 年謝肉祭にローマのアルジェンティーナ劇場《ゼルミーラ》にポリドーロ役、1829 年 1 月ヴェネツィアのフェニーチェ劇場《コリントスの包囲》にマオメット 2 世役で出演したアルカンジェロ・ベレットーニ [またはベッレットーニ] (Arcangelo Berettoni [Berrettoni], ?-?)。

◎**ドン・マニーフィコ：パチーニ氏 (Don Magnifico: Sign. Pacini)**

ルイージ・パチーニ (Luigi Pacini, 1767-1837) はバツソ・ブッフオとして活躍し、《なりゆき泥棒》(1812 年) 初演でドン・パルメニオーネ役、《イタリアのトルコ人》(1814 年) 初演でドン・ジェローニオ役を創唱した。作曲家ジョヴァンニ・パチーニの父としても知られる。

◎**クロリンダ^[ママ]：ボンドラ夫人 (Clorinde [sic]: Sgra. Bondra)**

1814 年 5 月 23 日にケルトナートーア劇場で行われたベートーヴェン《フィデリオ》決定稿初演でマルツェリーネ役を歌ったテレザ・ボンドラ (Teresa Bondra, ?-?) と思われる。1823 年に同劇場で上演された《ラ・チェネレントラ》にもクロリンダ役で出演している (印刷台本には Bondra とのみ記載)。

◎**ティズベ：フランケッティ夫人 (Tisbe: Sgra. Franchetti)**

おそらくフォルトゥナータ・フランケッティ (Fortunata Franchetti [-Wazel], ?-?)。ハインリヒ・マルシュナーのオペラ《聖堂騎士とユダヤ女》初演 (1829 年 12 月 22 日ライブツィヒ) でレベッカ役を創唱している。

◎**アンジェリーナ：コリーニバルトーニ夫人 (Angelina: Sgra. Cori-Paltoni)**

作曲家ナターレ・コッリ (Natale Corri, 1765-1822) の娘ファンニ [ファニー]・コッリニバルトーニ (Fanny Corri-Paltoni, ?-?)。著名なソプラノ歌手アンジェリーカ・カタラーニに師事し、1818-21 年にロンドンで活動した後、コンサート歌手としてヨーロッパ各地を回り、歌手ジュゼッペ・バルトーニと結婚した。《セミラーミデ》のアルサーチェを 1825 年にトリエステ、1826 年にパルマで歌い、《試金石》クラリーチェを 1826 年にマドリッド、1829 年にトリノーで歌ったコントラルトで、ドニゼッティ《劇場の都合・不都合》(1827 年) の改訂版 (1831 年ミラーノのカノッピアーナ劇場) でコリッラ役を務めた⁴。ナポリのサン・カルロ劇場とミラーノのスカラ座に出演するなど一定のキャリアを重ね、1834 年ブレーシャの《ラ・チェネレントラ》にも主演している。

◎**アリドーロ：プライジンガー氏 (Alidoro: Sign. Preisinger)**

ヨーゼフ・プライジンガー (Joseph Preisinger, 1796-1865) は 1824 年からケルトナートーア劇場でバス歌手として活動し、ベートーヴェンの第九交響曲の初演を含む演奏会 (1824 年 5 月 7 日ケルトナートーア劇場) にもソリストで出演を予定したが、最終的に降板を余儀なくされている (ベートーヴェンは高音が苦手な彼のためにレチタティーヴォを一箇所変更したが、高い f# を歌えなかった)。オペラ歌手としての評価は不明で、「銀行員」としてアマチュア的に扱った文献もある。

以上、告知ビラの簡略な名前の記載から該当人物を推測したが、当時のケルトナートーア劇場が国際的に活躍するイタリア人歌手を主役に求め、ヴィーン在住の歌手を脇役に構成したことを考えれば、ここでの推測はほぼ間違いないものと思う。

この 1827 年の配役は、1822 年のロッシーニ・シーズン、1824 年にフォードール夫人、ジョヴァンニ・バッティ

スタ・ルビーニ、ジョヴァンニ・ダヴィド [ダヴィデ]、ドメニコ・ドンゼッリ、ルイージ・ラブラーシュの出演したシーズンに比して明らかに歌手のランクが下がっており、歌手のレベル低下がロッシーニ人気の下降にも繋がった可能性がある。なお、この上演の印刷台本はまだ確認できておらず、現時点ではこの告知ビラが唯一の典拠になると思われる。

(2013年3月、HP用に作成)

¹ A.M.ハンスン『音楽都市ウィーン』喜多尾道冬／稲垣孝博共訳、音楽之友社、1988年、93頁。

² 作者ヴァイセントゥルンについては次のサイトを参照されたい。

http://de.wikipedia.org/wiki/Johanna_Franul_von_Wei%C3%9Fenthurn

<http://www.zeno.org/Literatur/M/Wei%C3%9Fenthurn,+Johanna+von>

³ ジェンダー・フォーラムの文書の該当部分は次のサイトを参照されたい。

<http://www.genderforum.org/issues/gender-and-humour-ii/dis-placing-laughter-in-30-rock/page/4/>

⁴ 1827年のナポリ初演でも同役を歌ったとする文献があるが、確証はない。